

三原市民と市長の「みらいトーク」(第10回) 実施結果

令和3年12月21日

目的 市長が、地域や団体の活動の場に出向き、市民との対話を通じて市政やまちづくりに対する積極的な意見や提案を広く聴き、今後の市政運営に活かすとともに市民の市政への参画機会の拡充を図ること。

日時 令和3年12月21日(火) 16時00分から17時30分

場所 三原市役所本庁舎 4階 第1応接室

参加者 市内の高校へ通学する高校生(8名)、三原市長

内容 市長が気になるテーマについて質問し、参加者と意見交換

1 最近気になった政治等のニュースについて

【参加者から】

(1) 最近気になった政治等のニュースについて

- 新型コロナウイルス感染症特別給付金について、18歳以下というのが気になる。大学生も含めた方がいいのではないかな。
- 子育て世帯生活支援特別給付金について、現金かクーポン、現金とクーポンなどいろいろな方法と意見があり、興味を持った。クーポンにすると、地域の工場が印刷等で潤ったりするので、クーポンがいいと思った。
- 子育て世帯生活支援特別給付金について、
- 北京オリンピックの外交的ボイコットについて、日本が中国とアメリカの間でどうするのかというニュースが気になった。

(2) 気になったニュースは、どのような媒体から知ったか

- テレビのニュースで知った
- スマホやインターネット経由から知った。(TikTok, ABEMA, Youtube等)
- 気になったニュースがあった場合は家族に聞いたり、スマホ等で調べて詳細を確認する。
- 三原市公式LINEについて、知ってはいるが、自身では登録せず、家族が登録している場合は、家族から三原市が発信する情報を聞くことがある。
(三原市公式ラインについて知っていたのは4名、登録者は0人。)

【市長から】

- 三原市からも市政の情報などを発信しているが、みなさんにきちんと届いているのかという点に気を付けている。なるべく多くの人に三原市からの情報を届けたいと思っている。

○スマホ世代と思っていたが、テレビのニュースを情報源としている生徒さんも多かった。

2 18歳から選挙権を持つことについて

【参加者から】

- 納税などと異なり、選挙は義務ではない。公約を見ても、働いていない学生にピンとこない公約が多く、実感が湧かない。自分が投票することは、今のままでは難しい。
- 投票に行こうと思っているが、自分たちに関係のあることが少ないので、投票するかどうか、どの候補者に投票すればいいのかわからない。
- 学校の授業で擬似選挙を行った。しっかり公約を読み、誰に投票するか考えることで、授業以前より選挙について少し興味がわいた。
- 学校の授業で選挙について学んだが、身近な人が投票に行っていないため、選挙について興味が湧かなかった。権利はあっても実際に投票しない人も多いということを実感した。

【市長から】

- 現状としては、高齢者の人口が多く投票率も高いので、立候補者は多く票を集めるために高齢者をターゲットにした政策を掲げる場合が多い。若者の投票率がよくなると、若者をターゲットとした公約を掲げるようになるのではないかと。
- 選挙の公約は候補者が最も大切にしていることを一番上に記載することが多い。たくさんいる候補者の公約のうち、一番上の公約を見ただけで分かりやすくなると思う。もちろん、それ以外の公約も見て深く考えてほしいと思う。

3 様々な情報に対して気を付けていることについて

【参加者から】

- 情報を見たとき、そのまま受け取らず自分で考える。冷静になって考えればフェイクニュースとわかるものもある。鵜呑みにしない。
- 複数のサイトや新聞、専門家の解説を確認しいろいろな情報から考える。
- 一個人が情報源の情報ではなく、市役所など公的な発信元から出ている公式の情報かどうかで判断する。

【市長から】

- 様々な情報に対して、なかには印象操作しようとする人もいるので、その情報に対していろいろな意見を聞いたり、確認するなど、多角的に見るようになってほしい。
- 情報源はどこかということを確認することが必要。政府が情報を発信する際は、政府のHPに掲載されるので、公式な情報か確認することが大事。
- 自分に関係していなくても、家族や親族に関係している公約があるかもしれないということを頭の片隅において選挙について考えてみてほしい。

4 三原のまちづくりについて

【参加者から】

- 最近子ども会など、いろんな世代が関わる機会が減っている。学びや遊びの場を提供できるラフラフでそのような機会を増やすことができると思う。こういったラフラフのような場所が増えたらもっといい街になるのではないかと思う。
- ラフラフではボランティアを募集されていて、ボランティアとしてもいろいろな世代の人と関ることができる。また、学校が違う子どもたちが交流でき、合わせて親世代も育児などで交流ができるので良いと思う。
- 三原駅～中之町～深の間の歩道が狭く、時間によっては車道にはみ出してしまう。小学生や中学生も通学しているので、自転車・歩行者ともに安全に通れるようになっていいと思う。
- 街灯が少なく暗い道が多い。部活などで遅くなると、暗くて歩行者と衝突しかねない。表通りも、歩行者が多いので、通学などは通りにくい。
- 三原市に映画館があればいいと思う。人が集まって、経済的にも良いと思う。
- 三原市には海、海水浴場があるので、これを活かしたらどうか。

【市長から】

- ラフラフでのボランティアを通じていろいろな経験をしていただくことは非常に良いことだと思う。
- 安全に通学してもらおうということは重要なことだと思っている。担当課や地域、町内会と協力して良くしていきたいと思う。
- 三原には須波海浜公園があり、今年度からキッチンカーなどいろいろな取組を行い、これまでも雰囲気が変わっている。また、日本国内でも珍しいバリアフリーの海水浴場になっている。

5 最後に市長から

政治・行政は、みなさんの生活に深い関わりをもっていることを覚えておいてください。今日は、高校生のみなさんとお話ができ楽しい時間を過ごすことができました。また、皆さんの意見を聞いて大変勉強になりました。ありがとうございました。